

# 幼児の Narrative Skill 発達につながる家族 Narrative 支援 「未来の君に贈るビデオレター」の活動デザインと実践

Designing the Activity which Supports Family Narrative.

佐藤 朝美\* 朝倉 民枝\*\* 椿本 弥生\*\*\*  
Tomomi SATO Tamie ASAKURA Mio TSUBAKIMOTO

東京大学情報学環\*

Interfaculty Initiative in Information Studies, the University of Tokyo\*

(株)グッド・グリーフ\*\*

Good Grief Inc. \*\*

公立はこだて未来大学 メタ学習センター\*\*\*

Center for Meta-Learning, Future University Hakodate\*\*\*

<あらまし>子どもの Narrative Skill の発達には、家族としての Narrative (家族 Narrative) が重要な役割を果たすという。親自身が家族としての経験の意味付けを家族内コミュニケーションにおいて行っていくことが、子どもの Narrative Skill におけるストーリーの意味付けの行為に影響する。本研究では、Family Narrative Consortium が作成した指標とその結果を手がかりに、Digital Storytelling を活用した家族内コミュニケーションの活動をデザインし、家族 Narrative 向上の支援を行った。実証実験の結果、活動により、家族 Narrative が向上することが分かった。特に活動におけるワークシートの記述を丁寧に行なった家族は、意味付けの項目の向上が大きかった。ワークシートで自身を振り返るとともに、夫婦で互いの共通点/差異点を発見することで、改めて家族の意味、出来事の意味を考えていくという気持ちの変化を実感する様子が見られた。

<キーワード> Narrative Skill, Family Narrative, 家族内コミュニケーション

## 1. はじめに

子どもの発達には家族システムに埋め込まれており、子どもの Narrative もまた、家族が日常語り合う Family Narrative (家族 Narrative) に影響されるという (Fiese 1999)。Narrative Skill とは、いくつかの出来事の一つのストーリーにおいて関係づけ、意味づけてゆくと共に、ストーリー全体をより精緻なものにしていく力である。筆者らは、子どもの Narrative Skill 向上につながる家族 Narrative を支援するために、Family Narrative Consortium (FNC) の作成した指標にもとづき、支援方法を検討してきた (佐藤ら 2011)。

## 2. 本研究の家族 Narrative の指標

FNC では、家族 Narrative の構成要素を(1) 一貫性、(2) インタラクション、(3) 信念という項目から、内容が示す詳細を定義するとともに、そこから指標を導き出し、その指標が妥当なものかの検証をしている。評価方法は、家族の夕食時の会話をビデオに撮影し、夕食後、インタビューア

と共にビデオを振り返りながら、語った内容について確認していくという作業を行なっている。それらのプロトコルから、父と母のデータについて、訓練された判定員が指標をもとに評価を行なう。ここでは、子どもの対話についてまでは言及していない。

FNC の指標をもとに、家族 Narrative がより向上することを念頭に本研究で用いる指標を下記のようにまとめた。

### (1) 一貫性

語られる内容が一貫したもので、1つのまとまった話になっているかどうかの指標。4つの項目から成り立っている(表1)。

表1: 一貫性の下位項目

a) 内部の整合性
語られている各部分の内容がテーマと矛盾していないかどうか、テーマへの見解や意味が述べられているかどうか。
b) 組織化
語られる内容に 5W1H があり、文脈だてて語られているかどうか。
c) 柔軟性
多面的に捉えているかどうか、各メンバーの視点が含

まれているかどうか。

**d) 内容と情動の一致**

内容に対する考えやそれに対する思いが表現されているかどうか、その感情が内容と矛盾していないかどうか。

**(2) インタラクション**

どのように夫婦で対話を重ねてストーリーを構築していくかの指標。3つの項目から成り立っている(表2)。

**表2:インタラクションの下位項目**

**a) 夫婦の Narrative スタイル**

対話スタイルの特徴として、意見の衝突がそのままになっていないか、協力的に共同でストーリーを作り上げているかどうか。

**b) 調整**

お互いに語り、家族が1つのグループとして、相手の意見を取り入れながら語っているかどうか。

**c) 夫と妻の確証/反証**

相手の語りについて否定や軽蔑的な発言をせず、積極的に論拠を確認しあっているか、反対の時も意見やその論拠をきちんと述べているかどうか。

**(3) 関係性への信念**

家族の各メンバーがその関係性について、安全で管理可能で信頼出来るものとみなしているかどうかの指標。

**3. 支援活動のデザイン**

本研究では、夫婦が家族としての意味生成を行うために、10年後の子どもへ贈るビデオレターを作成する活動をデザインした。受け手である10年後の子どもに向けて、感動を喚起するメッセージを考えるべく、お互いの困難や葛藤を持ち寄り、それらを克服するストーリー展開を吟味していく過程をこの活動の核とした。表3に、デザインした活動「未来の君に贈るビデオレター」を示す。

**4. 活動の実践と評価の概要**

**4. 1. 活動の実践**

夫婦28人(夫婦14組)を対象に実践を行った。東京都W市小学校1・2年生の子どもがいる家族を対象に募集した。1回につき4組程度、4回に分けて活動を行った。

**4. 2. 評価の概要**

デザインした活動により、夫婦の語りがどのように変化したのかを検証する。その方法として、まず、最初の活動時に、「家族にとって重要だと思われる出来事」を2つ挙げてもらう。そのテーマをランダムに割り当て、活動の事前に1つ、事後に残りの1つを夫婦で語ってもらった。その内

**表3:「未来の君に贈るビデオレター」の活動概要**

時間	活動・インストラクション
10:30-11:00	事前アンケートの記入 WS 概要説明 WS 参加者家族同士で自己紹介 家族に関する研究の紹介
11:00-11:30	ウォーミングアップ ※事前データとして分析を行う
11:30-12:00	サンプルビデオ視聴 ストーリーについての説明 ※家族 Narrative 向上を狙い、語りや対話におけるポイントや注意点を伝える。
13:00-14:00	ワークシートの記入 ワークシートの見せ合い ※葛藤や問題を導き出す
14:00-16:00	ビデオ構成・シナリオを吟味 ストーリーの流れを作成 PCでビデオレターを作成
16:00-16:30	フォローアップ ※事後データとして分析を行う
16:30-17:00	事後アンケート記入

容のプロトコルを起こし、作成した指標(1)一貫性と(2)インタラクションに基づいて比較を行った。(3)関係性への信念は、事前事後のアンケートで比較を行った。

プロトコル分析の結果、(1)一貫性および(2)インタラクションともに向上する様子がみられた。お互いの考えの共通点や差異点についての発見があり、それを話し合うことで気持ちが変化し、経験の意味づけを行なっていくことを促されたと考えられる。(3)関係性への信念は、全項目を通して、28人(夫婦14組)中、信念に対する項目がプラスに増えた人は11人、変化が無い人は10人、減少した人は7人であった。

**謝辞**

本研究は、平成22年度科学研究費補助基盤研究(C)(課題番号:22610004、代表:佐藤朝美)の助成を受けている。

**参考文献**

- Fiese, Barbara H.; Sameroff, Arnold J. (1999) The Family Narrative Consortium: A Multidimensional Approach to Narratives. Monographs of the Society for Research in Child Development, v64 n2 p1-36.
- 佐藤朝美, 朝倉民枝, 椿本弥生 (2011), 幼児の Narrative Skill 発達につながる Family Narrative の支援に関する研究. 日本教育工学会第27回大会講演論文集, P2a-105-64